

令和2年度 第1回学校評議員会 会議録

1 日時 令和2年6月22日(月) 15:00～16:30

2 場所 水沢高等学校 大会議室

3 出席者

○学校評議員

後藤真子 岩村正明 小野寺和人
花田英夫 菅原敏

○教職員

校長 及川晃貴 副校長 継枝 斉
事務長 高橋正美 総務主任 高橋直文
教務主任 去石 淳 生徒指導主事 佐々木明志
進路指導主事 目黒賢哉 保健主事 青井千明
SSH主任 鈴木竜矢

4 次第

(1) 開会 (2) 出席者自己紹介 (3) 校長挨拶並びに学校経営計画説明
(4) 学校概況説明 (5) 協議 (6) 閉会

5 協議内容 ○：学校評議員 △：教職員

○ この地区の中学生の三割が管外に流出しているという現状について、この地区の牽引役として、水沢高校ではどのような「学校の魅力づくり」をしているか

△ SSH(スーパーサイエンススクール)においては、今期の主対象を全校生徒対象とする中で、理数科だけでなく普通科でも課題研究をすることとしており、科学的な見方・考え方を身につけることが出来ること等を進めている。

実際には部活動で他地区の強豪校に進む生徒と、一関高専に進む生徒がいるととらえている。

○ SSH通算18年目ということだが、実際にSSHで学んだ生徒の追跡調査は行っているのか。

△ 理数科の卒業生については、毎年追跡調査を実施している。これについては、研究開発実施報告書の44ページにまとめてある。

○ 定員割れとのことだが、今後もその傾向は続くのか。

△ 管内の中学三年生の人数は、ここ1、2年は横ばいだが、その後は減少に転じる。来年度からは県立高校の後期再編計画5年間が始まる。この地区では、令和7年度に水沢

工業高校と一関工業高校、千厩高校産業技術科を統合し、県南に一つの大きな工業高校をつくる案が示されている。

- ハヤチネウスユキソウのPCR検査は大学で行ったのか、それとも高校に機材があつて高校で行ったのか。
- △ 大学と協力して行ったものである。
- 11月の理系海外留学生との合同集中キャンプはどのような内容か。
- △ 岩手大学に来ている留学生（英語を母国語としない留学生）を呼んで、英語を用いて実験を行ったり、自国の文化を教えてもらったりするもので、二日間開催する。可能であれば他県の留学生も呼びたいと考えている。
- 制服の検討について詳しく教えてほしい。
- △ 制服を替えるかどうかの議論からスタートする。OGからの要望が多いと聞いている。関心度が高く、先日のPTA役員を選出時には、制服検討委員に立候補したいという方も現れた。中学校の女子生徒たちも大いに興味を持っていると聞いている。制服を替えることで入試の志願者が増えるのであれば、それはそれで検討する価値はあると考えている。
- 水高の制服には歴史があり、自分も卒業生なので、この問題には非常に興味があるが、対応はお任せする。今回のコロナのことで、若い高校生が夢や希望を失ってほしくない。コロナウイルス感染症対策については適切に対応されており安心したが、地域では休業を余儀なくされている企業があるなど、かなり影響を受けている。職を失った方もいる現状があり、家庭によっては進学に向けて金銭的な悩みがあると思う。
- 経済的な理由で退学する生徒はいるか。
- △ 高校を退学した者は出ていない。しかし、経済的な理由から大学等の進路希望を変更することはあるようだ。調査によると学生に対する親からの仕送りは1995年に比べて現在は約4万円減少している。よって今の学生はアルバイトで稼いだお金を趣味等ではなく、自分の生活費に充てているのが実情であり、過日の3学年PTAでも説明したところである。併せて、奨学金制度の有効活用を検討するよう呼びかけている。
- コロナの感染が広がった場合の対応は。
- △ 休校になった場合は、オンライン学習等の実施を考えている。今年度、県教委「学びの改革研究事業」の研究協力校としてICTを活用した授業に取り組むが、このために整備されるICT機器の活用が念頭にある。この場合、生徒が所有するスマートフォンの学習利用も進めていくことになる。

△ 最後に評議員の皆様から一言ずつ、ご助言を頂きたい。

- コロナの影響で、社会体験の機会が失われていることが残念である。情勢がよくなり可能になったら生徒たちには、ボランティアなどの経験をいっぱいさせてほしい。
- 学校の魅力づくりを進め、子供たちにもいろいろ考えさせ進路選択させてほしい。県南のセンター校の名に恥じないようなアイデア、知恵を出し合っていたきたい。
- 高校生活が人生の種になればいい。水高に入学したことで目標を見つけて、地域に貢献する、或いは世界に貢献する人を育てるよう、その使命を果たしていただきたい。生徒には各自の志望達成を目指して頑張ってもらいたい。医学部生の中には他学部から編入してくる学生も結構いる。望めば門戸は開かれている。コロナで行事や生活が変わったが、自分を見つめる時間として、この逆境をチャンスに変えていただきたい。
- 水高は、少子化など大変な時期に成果を出している。さらなる活性化を期待したい。
- 水高近くの町内会にいる関係から、毎朝小学生の登校を見守りの後、水高生の登校も見守っている。県南の中核校であるので是非幅広い知識、経験を積ませ、活躍する人を育てて頂きたい。